

付属資料

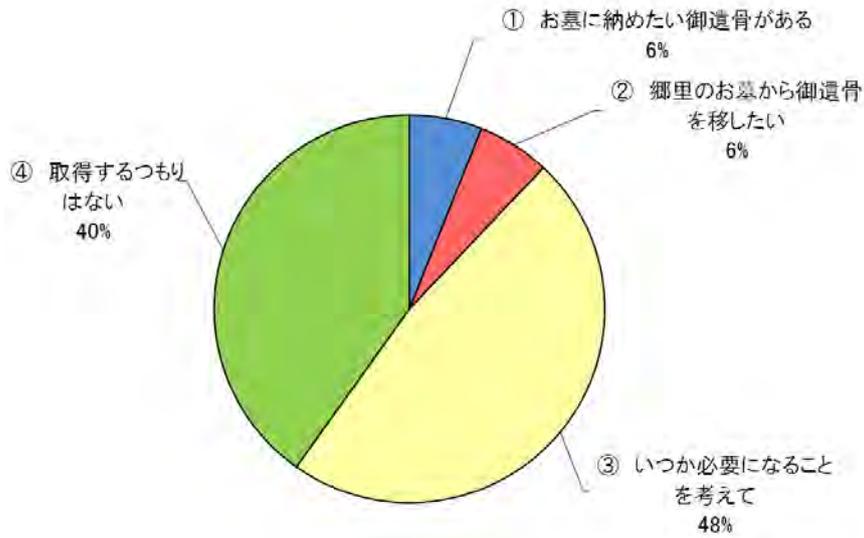
目 次

付属資料1 市営霊園における現状等	1
(1) 墓地に関する市民意識	1
(2) 市営霊園における今後の墓所供給の考え方	5
付属資料2 緑ヶ丘霊園の現況	7
付属資料3 早野聖地公園の現況	8
(1) 緑の現況	8
(2) 水系、生き物の現況	9
(3) 交通の現況	10
(4) 人の活動の現況	11
(5) 文化資源の現況	12
付属資料4 早野聖地公園再整備イメージ	13
(1) 早野聖地公園再整備イメージ	13
(2) 新規整備エリアのイメージ	14
(3) 樹林・芝生型墓所ゾーンの整備イメージ	15
(4) 合葬型墓所ゾーンの整備イメージ	16
付属資料5 審議経過及び委員名簿	17

付属資料1 市営霊園における現状等

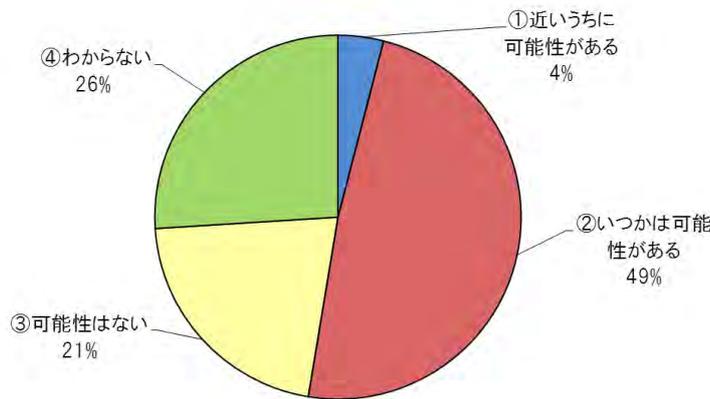
(1) 墓地に関する市民意識

① あなたがお墓を取得するとしたら、どのような理由ですか。(図1)



出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成24年 川崎市

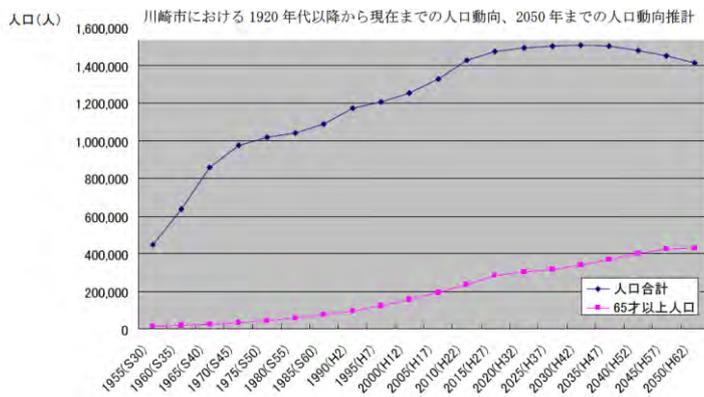
② 利用できるお墓がある方にお聞きします。将来お墓の承継者がいなくなり無縁化する可能性はありますか。(図2)



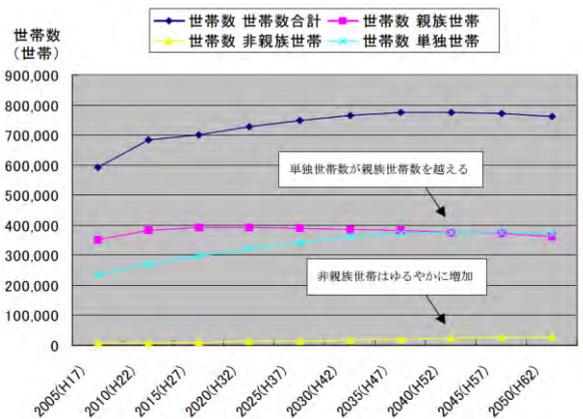
出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成24年 川崎市

③ 人口及び世帯数の推移 (図3)

人口の推移

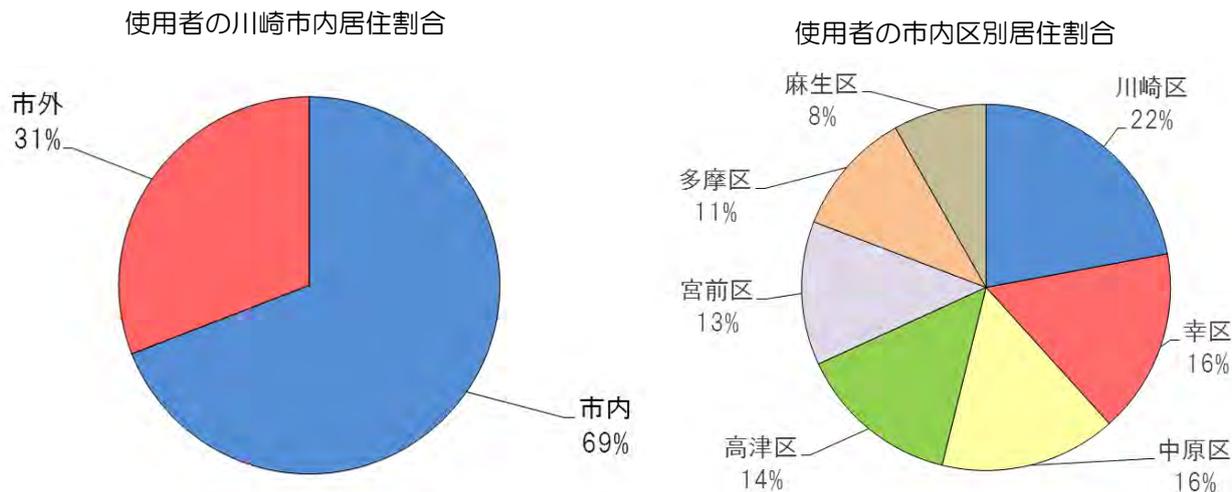


世帯数の推移



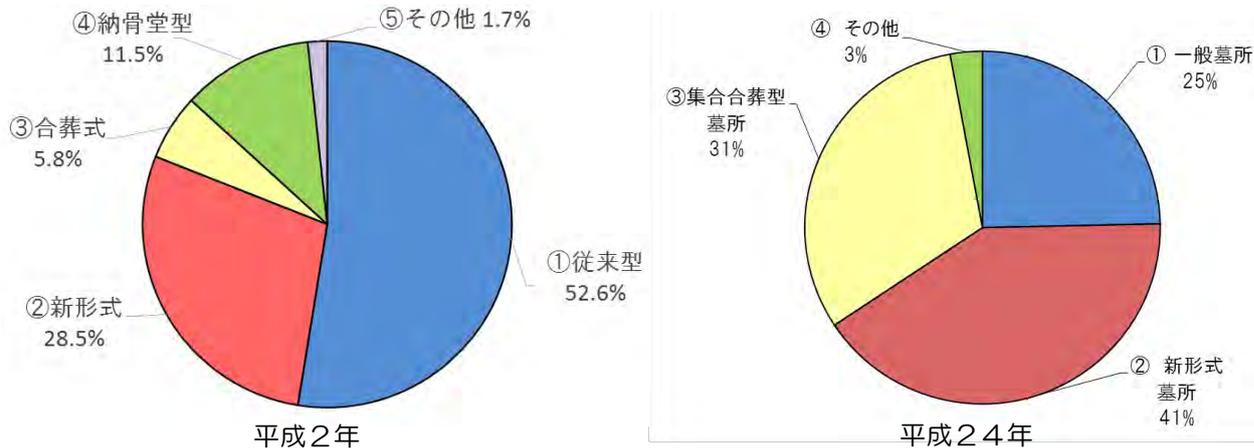
出典：「川崎市新総合計画策定資料」平成17年 川崎市

④ 市営霊園使用者の居住地状況 (図4)



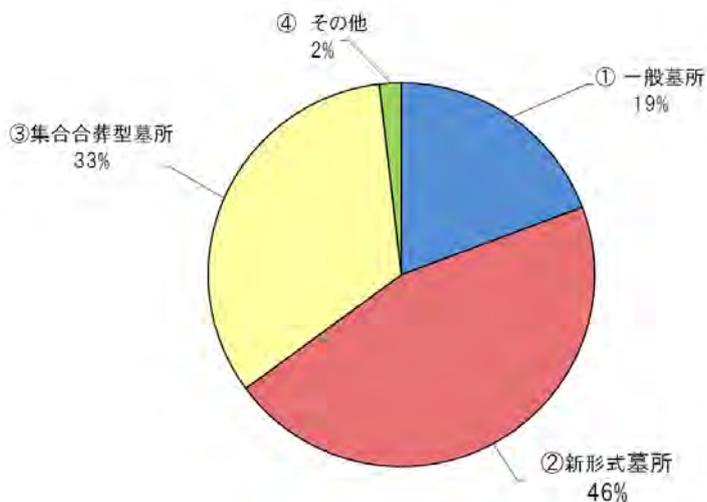
出典：「市営霊園墓所台帳」平成25年 川崎市

⑤ あなたは今後どのような墓地が供給されればよいと思いますか。(図5)



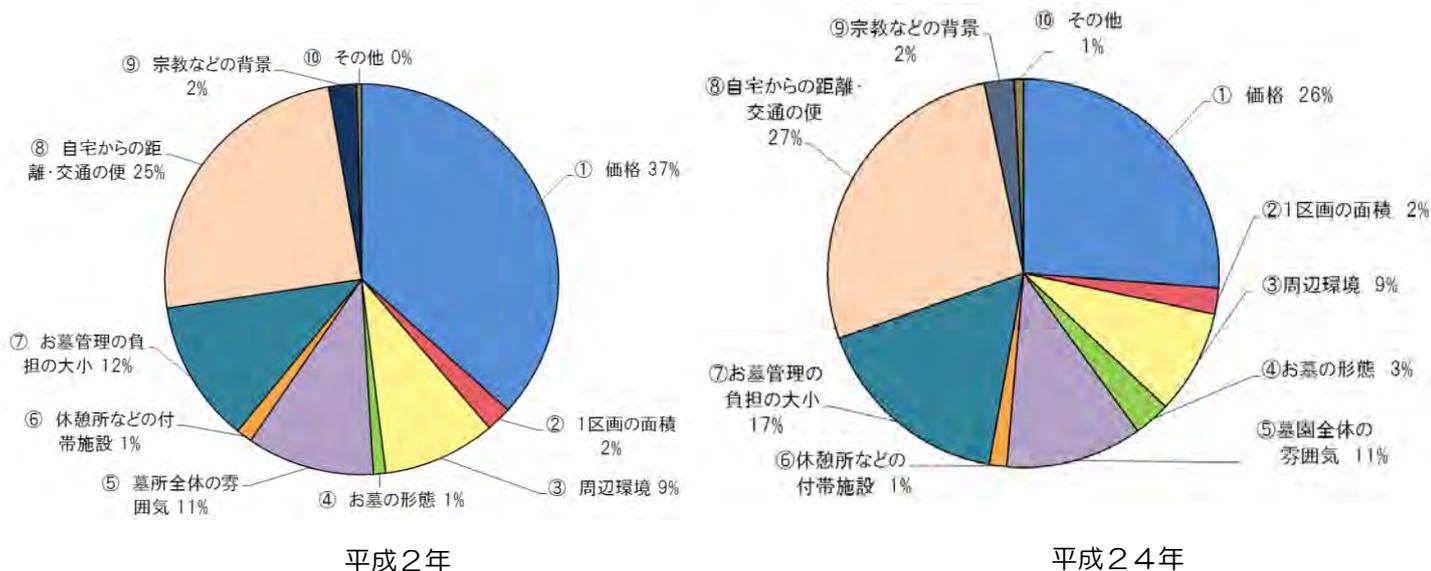
出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成2年および平成24年 川崎市

⑥ 市営霊園の墓所を取得希望する方にお聞きします。どのような墓地が供給されればよいと思いますか。(図6)



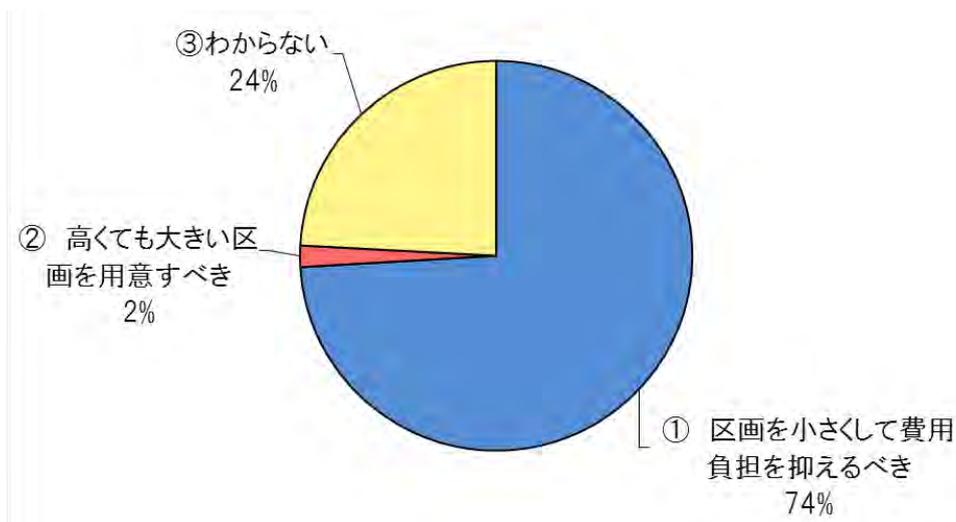
出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成24年 川崎市

⑦ お墓を取得するとしたら、最も重視する点は何ですか。(図7)



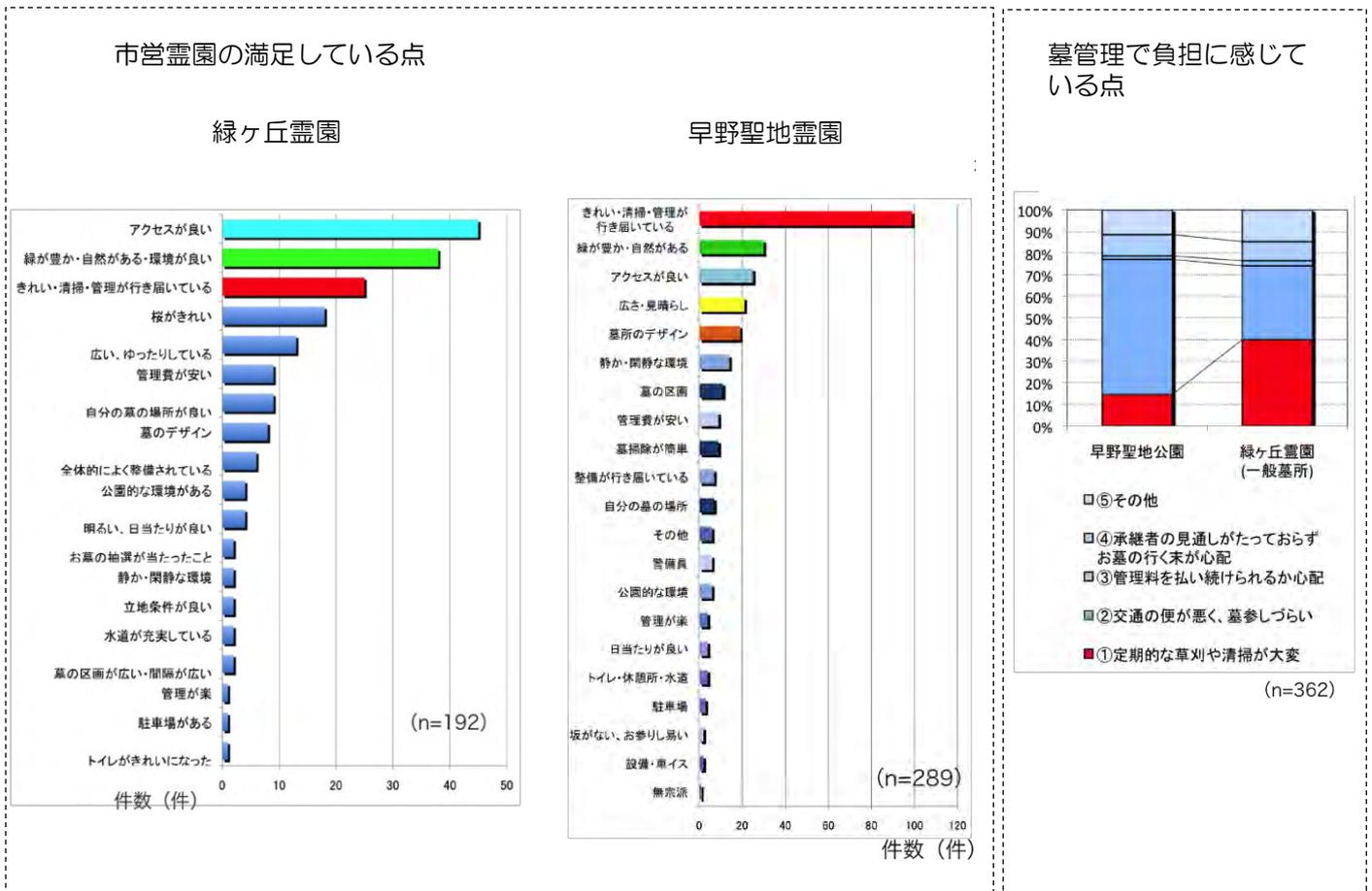
出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成2年及び平成24年 川崎市

⑧ 墓地を取得する費用と区画の広さについて、あなたはどのように思いますか。(図8)



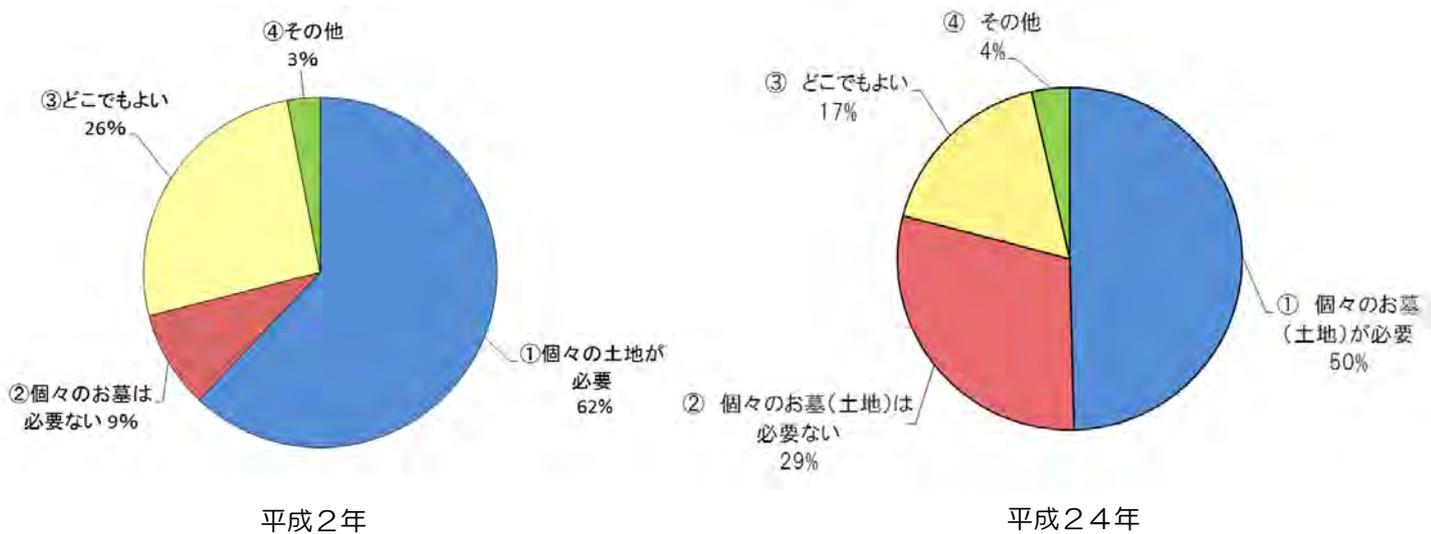
出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成24年 川崎市

⑨ 市営霊園の満足している点、墓管理で負担に感じている点について (図9)



出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成24年 川崎市

⑩ あなたはお墓をどのようにお考えですか。(図10)



出典：「市営霊園に関する市民意識調査」平成2年および平成24年 川崎市

(2) 市営霊園における今後の墓所供給の考え方

① 需要予測

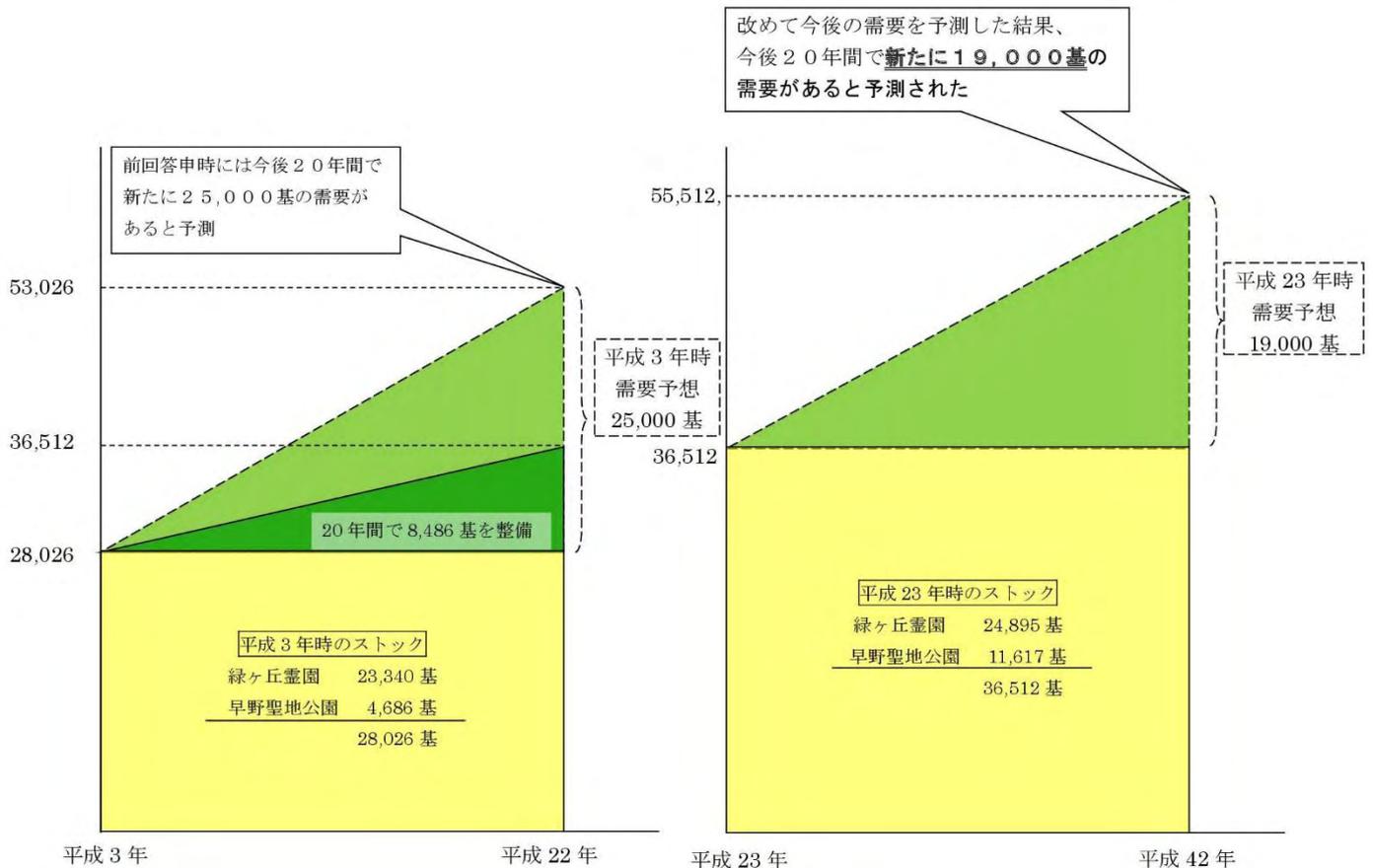
平成3年に試算した墓所の需要予測では、平成22年までの需要は約25,000基であったが、平成23年に前回の試算時と同等の方法で改めて試算したところ、平成42年までの20年間の需要は、約19,000基¹⁾であると予測された。

1) 20年間の墓所需要量は、下記式で求められる毎年の墓所需要量の20年分の総和。

$$\boxed{\text{市営霊園における毎年の墓所需要量}} = \boxed{\text{毎年の推定死亡者数}} \times \boxed{\text{川崎市に定住したいと思う人の割合}} \times \boxed{\text{川崎市での墓所取得を希望する人の割合}} \times \boxed{\text{市営霊園の墓所を希望する人の割合}}$$

《これまでの需要予測と供給の現状》

《これからの需要予測と供給の試算》



② 供給の考え方

1) 墓所の形態について

ア) 市民意識調査における墓所ニーズ

- ・「合葬型墓所が良い」という意見が31%
- ・「墓所が無縁化する可能性がある」という人が53%
- ・「区画を小さくしても費用負担を抑えるべき」という意見が74%

イ) 整備形態

市民意識調査の結果を受けて、新たに整備する墓所は以下の2種類を想定する。

○管理や承継が不要な合葬型墓所

整備コンセプト：御遺骨をお返ししないことを前提とし、親族だけでなく、多くの人と一緒に合祀する形式とする。また、自然環境と調和した墓所空間を創出する。

○従来より省スペースな墓所

整備コンセプト：1 墓所の占有面積を現行の 4 m²から 1.5 m²とし、約 6 割の占有面積の削減を図り、限られた敷地内で整備可能な墓所数の増加を目指す。また、墓所と公園緑地が一体となった空間の創出を図る。

2) 使用方法について

- ・墓所の使用期間は基本的に 20 年とし、更新ができるものとするが、その際には 更新手数料を徴収することを検討する。
- ・墓所が無縁化することを懸念する使用者には、20 年後に合葬型の墓所に手続き無しで移ることができる方法を検討する。

3) 墓所の効率的な使用による供給

ア) 返還墓所による供給

1,000 基【50 基(緑ヶ丘霊園 40 基/年・早野聖地公園 10 基/年)×20 年】

イ) 合葬型墓所への改葬によって返還される墓所による供給

1,000 基【50 基/年×20 年】

4) 新規墓所による供給

需要予測 19,000 基に対して、上記のとおり墓所の効率的な使用によって 2,000 基が供給されることから、新たに 17,000 基の墓所整備が必要となる。

ア) 合葬型墓所による供給

8,500 基【17,000 基×50% (市民意識調査での希望者割合)】

イ) 省スペースな墓所による供給

8,500 基【17,000 基-8,500 基 (合葬型墓所整備数)】

③今後の墓所供給のまとめ

供給方法 供給数	墓所の効率的な使用による供給		新規整備による供給		合計
	返還 (1,000 基)	合葬型墓所への改葬 (1,000 基)	合葬型墓所 (8,500 基)	省スペースな墓所 (8,500 基)	
供給基数	2,000 基		17,000 基 ²⁾		19,000 基

2) 新規に整備する 17,000 基の墓所については、早野聖地公園の新規整備エリア内で、合葬型墓所と省スペースな墓所を効率的に配置することで確保することができる。

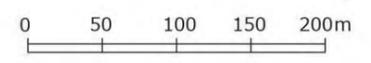
付属資料2 緑ヶ丘霊園の現況

- ・昭和15年に都市計画決定されて以降、墓所の整備と供給が行われ、平成25年度末現在では、計画決定面積59ha、使用許可区画数25,012区画となっている。
- ・全体計画としてはほぼ完成されており、墓所の供給は今後さほど望めない状況となっている。
- ・川崎市の緑の軸線の一角を担う核として、隣接する東高根森林公園とともに照葉樹林（シラカシ林）が存在している。
- ・幹線園路沿いには桜並木があり、春には桜の名所として市民に親しまれている。



凡 例

	都市計画決定区域
	墓所
	既存林等
	桜並木
	園路等
	池等



付属資料3 早野聖地公園の現況

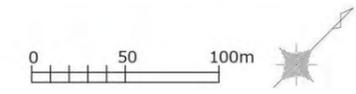
(1) 緑の現況

- ・雑木林であるクヌギ-コナラ林が大部分を占めており、モウソウチクを中心とした竹林がパッチ状に分布している。竹林の分布は、平成19年度に行った植物調査時より拡大している。
- ・斜面の一部には、この土地本来の自然植生と考えられる照葉樹林（シラカシ林）が断片的にみられ、池や湿地の周辺にはハンノキ林やヨシ等が優占している。
- ・クヌギ-コナラ林の一部では、ホウチャクソウやスミレ類、ヤマユリ等の野草が分布している。
- ・市民活動による雑木林の管理が行われている。
- ・新規整備エリアの中央部は草地で、コナラなど大径木が点在している。
- ・新規整備エリアの北西側は草地と果樹や植栽木の樹林がみられる。



凡 例

	シラカシ林
	クヌギ-コナラ林
	ハンノキ林
	草地
	竹林
	竹林 (H19年度調査より拡大した部分)
	植林 (スギ、ヒノキ、クスノキ等)
	植栽樹
	畑・果樹園
	景観木
	林床でみられる特徴的な植物
	新規整備エリア



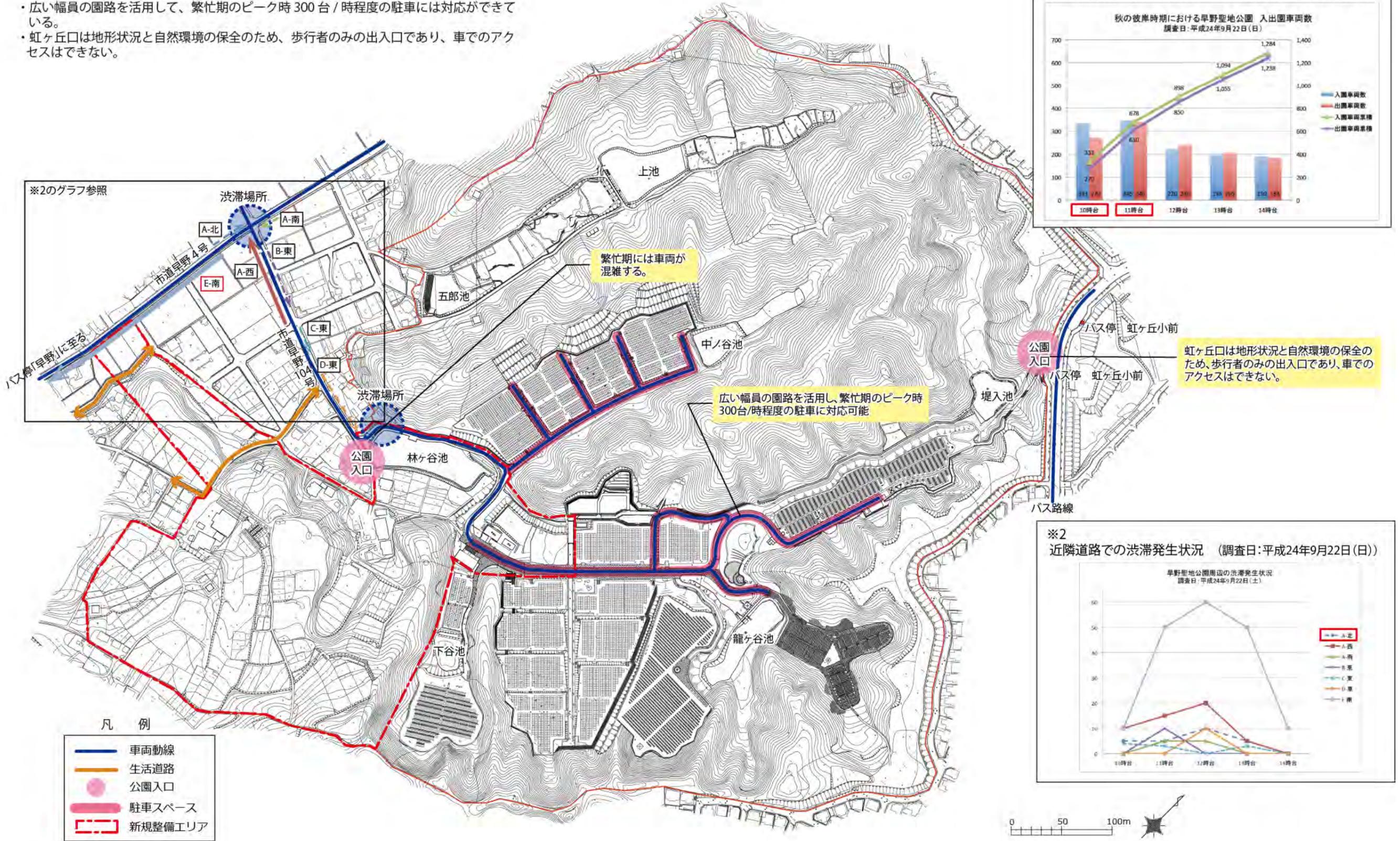
(2) 水系、生き物の現況

- 3本の谷戸に貴重な7つのため池と湿地空間が現存しており、湧水とその周辺の涵養林の保全、湿地空間の保全を図る必要がある。また、水路には暗渠化されているなど水系を認識できない箇所がある。
- ショウジョウトンボ、オオシオカラトンボなどの昆虫、アカガエル、ホトケドジョウなどの水生生物、シジウカラ、カワセミなどの鳥類等が見られ、多様な生物の生息環境がある。



(3) 交通の現況

- ・入口は歩行者用の虹ヶ丘側、車両が入れる林ヶ谷池側がある。
- ・交通量調査によると、10時台～11時台を中心に午前中の出入りが多い。(※1)
- ・渋滞が最も発生した時間帯は11時～13時台（12時台がピーク）となっている。(※1)
- ・渋滞の発生場所は、早野4号と早野104号の十字路となっている。(※2)
- ・繁忙期は交通渋滞がおきていることから、円滑なアクセスの改善が求められる。
- ・林ヶ谷池交差点は繁忙期には、車両が混雑する状況である。
- ・広い幅員の園路を活用して、繁忙期のピーク時300台/時程度の駐車には対応できている。
- ・虹ヶ丘口は地形状況と自然環境の保全のため、歩行者のみの出入口であり、車でのアクセスはできない。

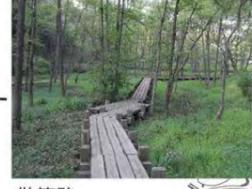


(4)人の活動の現況

- ・周辺及び樹林地内を結ぶ散策ルートがあり、日常的に利用されている。
- ・雑木林や湿地等の周辺では、樹木管理などの様々なボランティア活動が行われている。
- ・自然環境をいかした散策路はあるが、周知されていない。



早野聖地公園里山ボランティア



散策路



希少植物の定点観測



下草刈り



昆虫観察会

グリーンアカデミー専科
(みどりの地域づくりコース)



調査



間伐材による柵の設置

早野聖地公園におけるボランティア活動

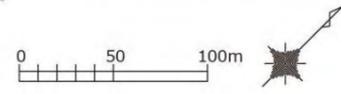
- 早野聖地公園里山ボランティア
約80名のメンバーが林床の草刈りや間伐、竹林の整理などを行っている。
また、間伐した樹木を利用した炭焼きや、地域の小学生を対象とした里山学習支援を行っている。
- かわさき多摩丘陵グリーンコンソーシアム
＜東京農業大学地域環境科学部と川崎市の共同研究＞
保全緑地の一部を東京農業大学の研究エリアとして活用し、学術的な研究成果に基づいた緑地の保全管理手法の構築を行っている。活動の一環として、林床の草刈りや間伐、竹林の整理を行っている。
- グリーンアカデミー専科(みどりの地域づくりコース)
＜東京農業大学エクステンションセンター主催＞
東京農業大学が開講している「グリーンアカデミー専科(みどりの地域づくりコース)」の里山管理の実習地として、園内の下草刈りや間伐等の作業を行っている。

尾根の散策路:通勤通学にも利用されている



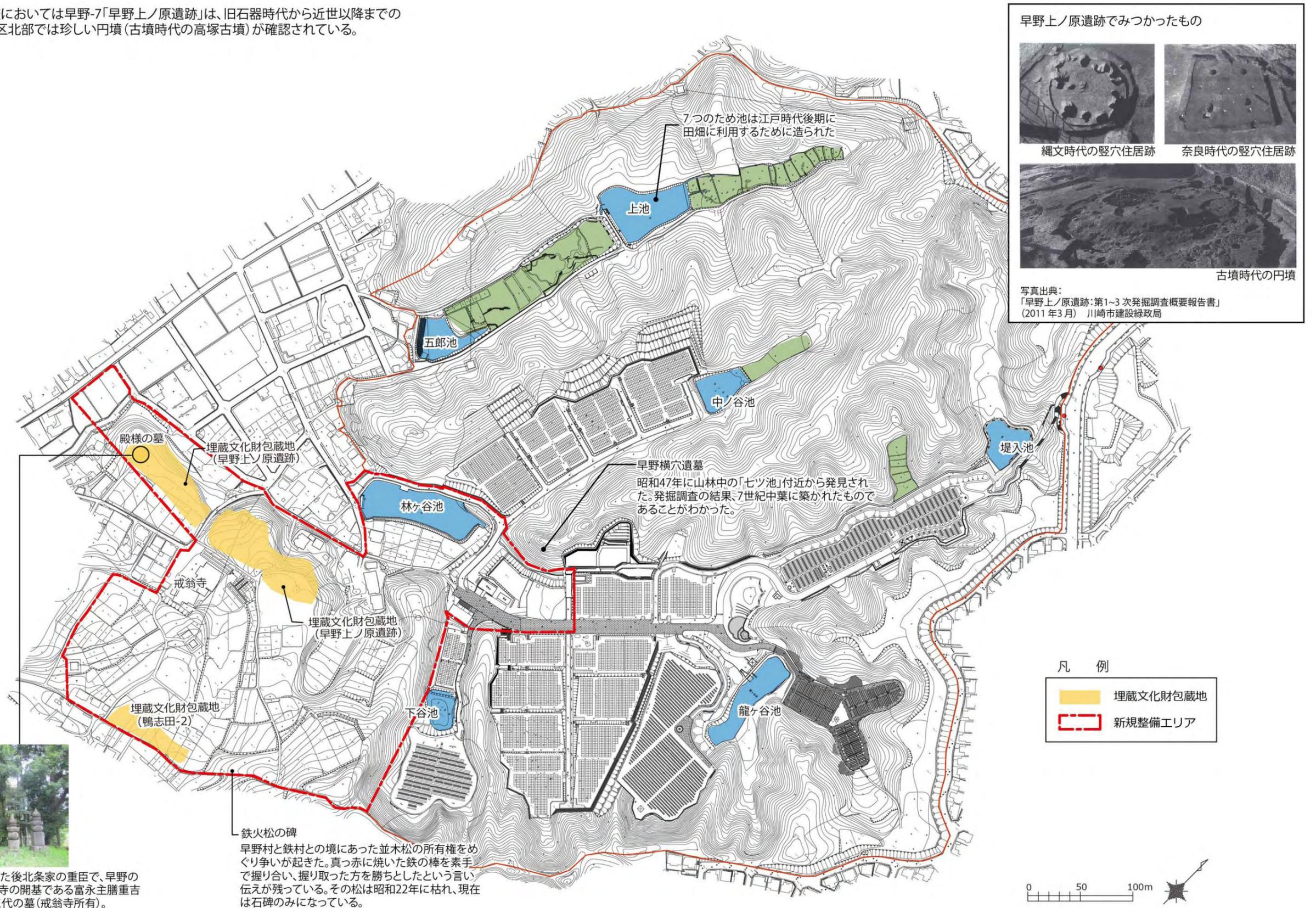
凡 例

	散策路
	園内通路
	生活道路
	休息場所
	展望場所
	新規整備エリア



(5) 文化資源の現況

- 古墳時代の高塚古墳や横穴墓が多い。
- 新規整備エリアには2箇所の埋蔵文化財包蔵地(早野-7、鴨志田-2)が指定されており、新規整備にあたっては、地形を極力改変しないことが条件となる。また「殿様の墓」と呼ばれる遺構がある。
- 上記区域の発掘調査においては早野-7「早野上ノ原遺跡」は、旧石器時代から近世以降までの様々な遺構や、麻生区北部では珍しい円墳(古墳時代の高塚古墳)が確認されている。



早野村を知りし後北条家の重臣で、早野の菩提寺、芳林山戒翁寺の開基である富永主膳重吉と正源・朝臣・安吉三代の墓(戒翁寺所有)。

鉄火松の碑
早野村と鉄村との境にあった並木松の所有権をめぐる争いが起きた。真っ赤に焼いた鉄の棒を素手で握り合い、握り取った方を勝ちとしたという言い伝えが残っている。その松は昭和22年に枯れ、現在は石碑のみになっている。

付属資料4 早野聖地公園再整備イメージ

(1) 早野聖地公園再整備イメージ

- ・現存する緑の資源や生物生息環境、水系を保全活用し、散策路の設定などの取り組みを進めることで自然とふれあえる空間づくりを推進する。
- ・エントランスエリア、広場エリアの再整備により市民が集い憩える空間とし、利用者の利便性向上を図る。
- ・車両でのアクセスルートの新規整備、一方通行化による交通渋滞緩和の対応を図る。
- ・市民ボランティア等との連携を深めるとともに、市民に市営霊園としての魅力を伝えるための案内表示や広報の充実を図る。また、広く市民との協働の取り組みを推進し、そのための拠点施設の充実を検討する。

凡 例

- エントランスエリア
- 広場エリア
- 樹林エリア
- 自然観察・市民活動エリア
- 新規整備エリア
- 外周散策路
- 里山湿地林散策路
- 尾根道雑木林散策路
- 健康散策路
- 水路
- 休息スポット
- 展望スポット
- 文化財等



(2) 新規整備エリアのイメージ

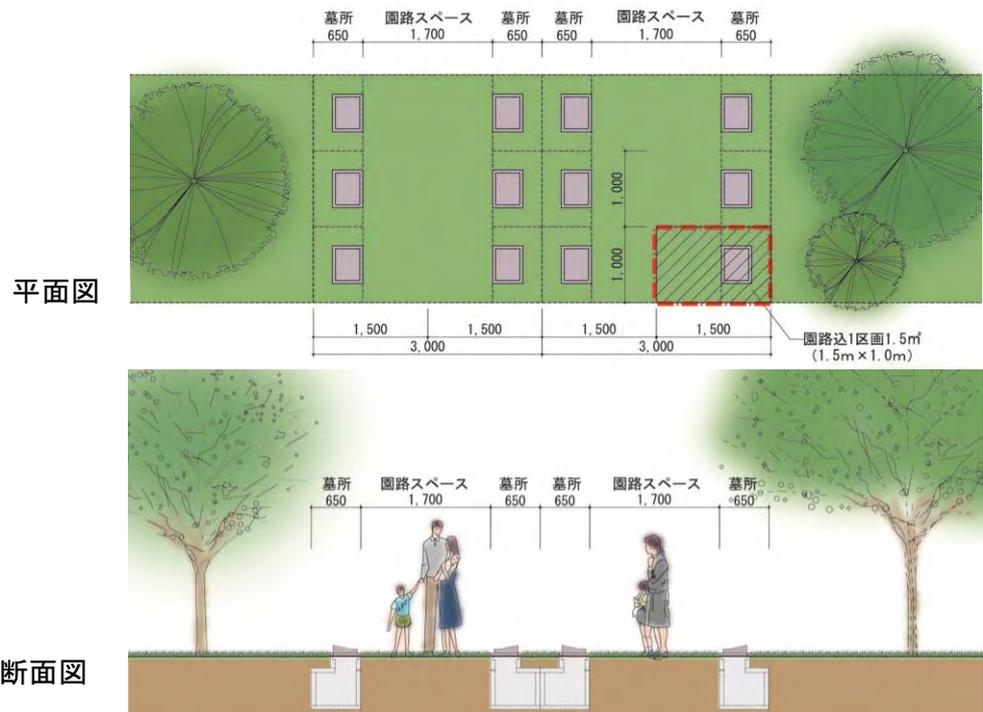


(3) 樹林・芝生型墓所ゾーンの整備イメージ

■整備方針

- ・墓所の配置は複数の墓所で小さな区画を構成する形とし、各区画はそれぞれ季節感のある植栽をテーマとするとともに、墓所の向きは2方向の向きを組み合わせることで特色のある空間づくりとする。
- ・墓所を整備する面積が限られている中で、今後の墓所需要に応えるため区画内に従来よりも省スペースな墓所を効率的に配置する。
- ・高齢化社会等の社会的背景を踏まえ、区画内は可能な限りバリアフリーに整備する。
- ・区画間のしつらえや配置等を工夫し、園内全体を楽しく散策できるようにする。

■標準図



■整備イメージ図



(4) 合葬型墓所ゾーンの整備イメージ

■整備方針

【整備方針】

- ・早野の既存樹林と一体となった日常に寄り添った合葬型墓所を整備する。
- ・管理や承継が不要な合葬型墓所とする。

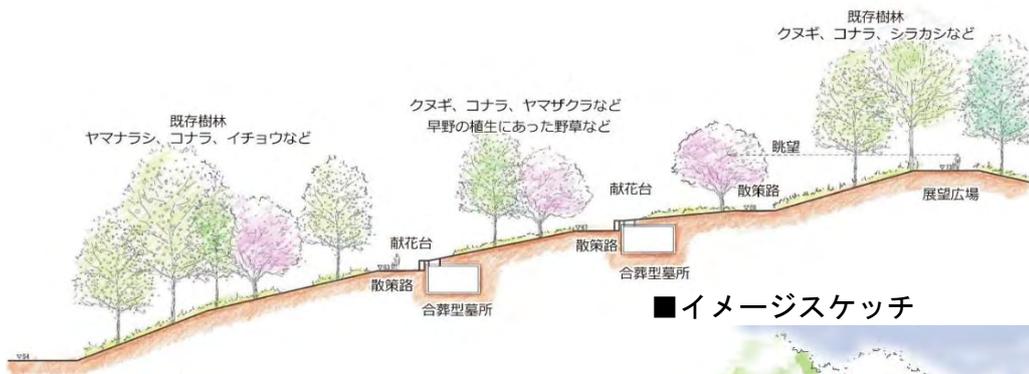
【形態・規模】

- ・形態：地下カロート式、墓参は地上部の合同献花台にて行う。地上部は散策路と明るい雑木林とし、日常の公園利用が可能なエリアとする。
- ・必要な規模：8,500体以上
- ・カロート規模：内径5.0m×10.0m×H2.5m×2箇所
※埋葬作業の効率性を図るため、容量と同等の作業スペースを確保する。また、今後の需要の変化を考慮して余裕を待たせた容量とする。

【運営管理方針】

- ・御遺骨を布袋等に入れて直接地下カロート内に合祀する。(親族だけでなく多くの人と一緒に埋葬)
- ・近隣住民に配慮する観点から直接土に触れる形での埋葬はしない。(カロート内に埋葬)
- ・御遺骨は返還しないことを前提とする。
- ・生前に墓所を取得することが可能な募集方法とする。

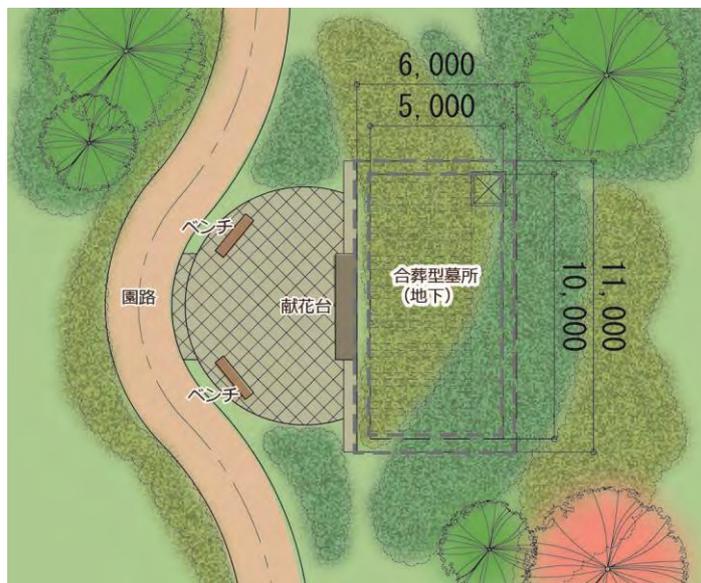
■断面イメージ



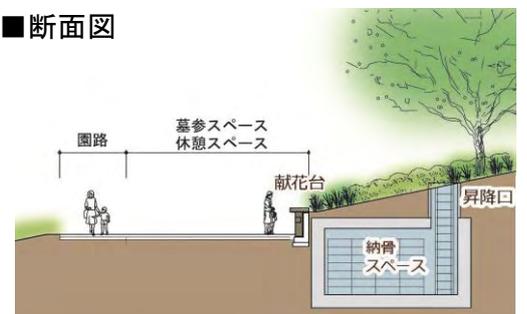
■イメージスケッチ



■平面図



■断面図



付属資料5 審議経過及び委員名簿

(1) 川崎市環境審議会・緑と公園部会の審議経過

	開催日時	内容
1	平成 25 年度 第 1 回環境審議会 (平成 25 年 7 月 8 日)	・川崎市における市営霊園の今後のあり方について (諮問)
2	平成 25 年度 第 2 回緑と公園部会 (平成 25 年 8 月 9 日)	・審議方針の確認 ・現地視察 ・市営霊園の概要について
3	平成 25 年度 第 4 回緑と公園部会 (平成 25 年 10 月 8 日)	・市営霊園に関する基礎資料について ・事例検討 ・市営霊園のあり方について
4	平成 25 年度 第 6 回緑と公園部会 (平成 25 年 11 月 29 日)	・答申(素案骨子)の検討
5	平成 25 年度 第 7 回緑と公園部会 (平成 25 年 12 月 20 日)	・答申(素案骨子)の検討
6	平成 25 年度 第 8 回緑と公園部会 (平成 25 年 1 月 14 日)	・今後の審議方針について ・環境審議会への審議経過報告について
7	平成 25 年度 第 3 回環境審議会 (平成 26 年 2 月 3 日)	・審議経過の中間報告
8	平成 26 年度 第 1 回緑と公園部会 (平成 26 年 4 月 28 日)	・平成 25 年度審議結果の確認 ・平成 26 年度審議スケジュールについて
9	平成 26 年度 第 2 回緑と公園部会 (平成 26 年 6 月 6 日)	・墓所整備における前提条件整理 (敷地分析等) ・今後の墓所整備の考え方について
10	平成 26 年度 第 3 回緑と公園部会 (平成 26 年 8 月 11 日)	・今後の墓所整備の考え方について ・答申(素案)の審議
11	平成 26 年度 第 4 回緑と公園部会 (平成 26 年 10 月 15 日)	・答申(案)の審議 ・審議とりまとめ
12	平成 26 年度 第 2 回環境審議会 (平成 26 年 11 月 18 日)	・答申審議

(2) 緑と公園部会委員名簿

■平成 25 年度 (50 音順、敬称略)

氏名	所属等	専門分野等	備考
石川 幹子	中央大学理工学部人間総合理工学科教授	環境デザイン	部会長
影山 亥史	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法、行政法	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
鈴木 良樹	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合 代表理事副組合長	市民代表	
藤吉 誠一	川崎地域連合副議長	市民代表	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態	副部会長
横田 睦	公益社団法人全日本墓園協会主任研究員	墓園関係	臨時委員

※任期：平成 24 年 3 月 1 日から平成 26 年 2 月 28 日まで (平成 24 年 3 月 1 日時点)

■平成 26 年度 (50 音順、敬称略)

氏名	所属等	専門分野等	備考
石川 幹子	中央大学理工学部人間総合理工学科教授	環境デザイン	部会長
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法、行政法	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合 代表理事副組合長	市民代表	
藤吉 誠一郎	川崎地域連合副議長	市民代表	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態	副部会長
山村 辰男	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	
横田 睦	公益社団法人全日本墓園協会主任研究員	墓園関係	臨時委員
余郷 昌昭	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	

※任期：平成 26 年 3 月 1 日から平成 28 年 2 月 29 日まで (平成 26 年 3 月 1 日時点)

(3) 川崎市環境審議会委員名簿

■平成25年度(50音順、敬称略)

氏名	所属等	専門分野等	備考
石井 誠一郎	川崎市医師会理事	市民代表	
石川 幹子	中央大学理工学部人間総合理工学科教授	環境デザイン	
井田 肇	川崎市全町内会連合会 会計監査	市民代表	
大迫 政浩	(独)国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長	環境工学	
落合 由紀子	東海大学教養学部准教授	経済政策	
影山 亥史郎	市民公募(緑・公園分野)	市民代表	
神戸 治夫	川崎公害病患者と家族の会顧問	市民代表	
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法、行政法	
小谷 幸亘	市民公募(公害対策分野)	市民代表	
小西 淑人	一般社団法人日本繊維状物質研究協会専務理事	作業環境管理学	
坂本 和彦	埼玉大学名誉教授、埼玉県環境科学国際センター総長	大気環境科学、環境制御工学	
庄司 佳子	かわさき地球温暖化対策推進協議会会長	市民代表	
進士 五十八	東京農業大学名誉教授	環境学、造園学	会長
杉山 涼子	富士常葉大学社会環境学部教授	社会工学	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
鈴木 良樹	市民公募(緑・公園分野)	市民代表	
相馬 豊	市民公募(廃棄物分野)	市民代表	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合 代表理事副組合長	市民代表	
田中 秀明	川崎商工会議所議員	市民代表	
萩原 利夫	市民公募(公害対策分野)	市民代表	
藤井 修二	東京工業大学大学院教授	建築環境工学	副会長
藤田 由紀子	専修大学法学部教授	行政学、公共政策	
藤吉 誠一郎	川崎地域連合副議長	市民代表	
藤吉 秀昭	(財)日本環境衛生センター 常務理事	廃棄物処理工学	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態学	
村上 公哉	芝浦工業大学工学部建築工学科教授	環境エネルギー計画	
村山 美香子	市民公募(廃棄物部会)	市民代表	
横田 睦	公益社団法人全日本墓園協会主任研究員	墓園関係	臨時委員
吉門 洋	一般財団法人日本気象協会参与	大気環境科学	

※任期：平成24年3月1日から平成26年2月28日まで(平成25年7月8日時点)

■平成26年度（50音順、敬称略）

氏名	所属等	専門分野等	備考
石川 幹子	中央大学理工学部人間総合理工学学科教授	環境デザイン	
大迫 政浩	(独)国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長	環境工学	
太田 史一	川崎市医師会理事	市民代表	
金子 大助	市民公募（廃棄物分野）	市民代表	
金子 守正	市民公募（廃棄物分野）	市民代表	
神戸 治夫	川崎公害病患者と家族の会顧問	市民代表	
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市計画・都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法・行政法	
神前 真紀男	川崎商工会議所議員	市民代表	
小西 淑人	一般社団法人日本繊維状物質研究協会専務理事	作業環境管理学・繊維状エアゾル計測	
坂本 和彦	埼玉大学名誉教授、埼玉県環境科学国際センター総長	大気環境科学	
庄司 佳子	川崎市地球温暖化防止活動推進センター（認定NPO法人アクト川崎副理事長）	市民代表	
進士 五十八	東京農業大学名誉教授	環境学・造園学	会長
杉山 涼子	常葉大学社会環境学部教授	社会工学	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合 代表理事副組合長	市民代表	
藤井 修二	東京工業大学大学院教授	建築環境工学	副会長
藤田 由紀子	専修大学法学部教授	行政学・公共政策	
藤吉 誠一郎	川崎地域連合副議長	市民代表	
藤吉 秀昭	(財)日本環境衛生センター 常務理事	廃棄物処理工学	
藤原 俊六郎	明治大学農学部特任教授	土壌肥料・リサイクル	
淵田 孝一	市民公募（公害対策分野）	市民代表	
森川 友生男	川崎市一般廃棄物処理業連絡協議会副会長	市民代表	
三角 治洋	市民公募（公害対策部会）	市民代表	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態学	
村上 公哉	芝浦工業大学工学部建築工学科教授	環境エネルギー計画	
山内 昭伍	川崎市全町内会連合会理事	市民代表	
山村 辰男	市民公募（緑・公園分野）	市民代表	
余郷 昌昭	市民公募（緑・公園分野）	市民代表	
横田 睦	公益社団法人全日本墓園協会主任研究員	墓園関係	臨時委員
吉門 洋	一般財団法人日本気象協会参与	大気環境科学	

※任期：平成26年3月1日から平成28年2月29日まで（平成26年3月1日時点）